遺伝子病理・検査診断研究会

第二回　定期報告会の概要　（2018 年 2 月 17 日開催）

2018 年 4 月

2018 年 2 月に遺伝子病理・検査診断研究会の第二回 定期報告会を開催いたしました。
当日の会の概要についてご紹介させていただきます。

■第二回 定期報告会　開催のご挨拶

代表世話人　長村義之
国際医療福祉大学大学院
日本鋼管病院 病理診断科

ゲノム医療の拠点 11 施設が発表され、まもなく連携施設 100 施設も発表となる。この拠点施設で行われる遺伝子検査についても厚労省から指針が発表され、病理部門がその運用において重要な役割を担っていることは明らかである。

遺伝子検査は検体検査に分類され、検査の精度の担保及び検体処理に関する技術のブラッシュアップとその共有は必須である。

このような背景のもと、今回の報告会は大変タイムリーな内容となっている。研究会の活動成果をはじめ、検体の取扱規定に関する情報、肺がんの最新治療法と遺伝子検査の重要性等、最新情報を発信させていただき、施設で有効に活用いただきたいと考えている。

■定期報告会の開催概要

＜講演 1＞プレスタディーの内容と結果
講師：佐々木 伸也（本会 世話人）
生検検体の選択やマクロダイセクションの有無が検査結果に与える影響について、2 施設で試験的に実施した検証結果について報告した。

＜講演 2＞情報提供「ゲノム診療用病理組織検体取扱い規定について」
講師：阿部 香織（本会 世話人）
日本病理学会が発信している「ゲノム診療用病理組織検体取扱い規程」の内容を中心に、ゲノム診療を行う上で、求められる検体の取扱いについて、自施設の経験的ノウハウも含めて情報を整理した。

＜特別講演＞肺がんにおける最新治療と遺伝子検査
講師：清水 哲男先生（日本大学医学部附属板橋病院　呼吸器内科）
呼吸器領域の最新の薬剤を含めた治療法と、治療現場での遺伝子検査結果の利用の実態について、実際の症例を交えてご講演いただきました。

＜ディスカッション＞
司会：郡司 昌治（本会 世話人）
Liquid biopsy と組織検体を用いた検査での陽性率の違いや、Friday biopsy の取り扱い、臨床への結果報告の内容と方法について、施設での実例を踏まえディスカッションを行った。

以上

※詳細内容はホームページ上の会員専用ページに掲載しております。

お問い合わせ

遺伝子病理・検査診断研究会　事務局
E-mail　:jimukyoku@idenshi-byouri.com
URL　:http://idenshi-byouri.com/